

こんなことあったよ！レポート

平成20年8月4日(月)

西目高校校外学習～木高研・毘沙門憩いの森見学～編



水分と熱で変化する木材の不思議な性質を利用した「曲げ木」の技術を学びました



クロマツの剪定枝葉から採取した精油の効能は・・・？



木製プランター「わたし曲がってます」の名付け親の信太さんから材料となる湾曲集成材の製造方法を学びました。



やっぱり、カヌーは人気があります。丘の上でもノリノリです。でも、3人乗りは危険！よい子はまねをしないように！

8月4日に、西目高校の3年生が、夏休みを利用して木高研や常盤での木の利用について学びに来てくれました。西目高校では「西目高校“木育（もくいく）スクール2008”」というタイトルで「森づくり県民提案事業」に採択され、森林や木材について学んだり、教えたり、木材利用をPRしたりすることに取り組んでいます。木高研を訪れたのはこの企画に参加する土木系と農業系の生徒7名と先生3名で、木高研では、いろいろな分野の先生から最新の研究について学びました。（こんなことあったよ！レポートH20年5月1日（木）&20日（火）号参照）。

次に向かったのは、能代市内の集成材工場「榎相沢銘木」さん。スギ塀や常盤の木橋、木製カヌー、木製プランターなどネットワークが手がけた木製品の殆どは相澤銘木さんの協力によるものです。いつもお世話になっております。西目高校木育スクールでは、木製プランター「わたし曲がってます」の組立を地元の小学校の児童に高校生が教えるというメニューが企画されていて、このプランターのキットがどのようにして作られているかを知るといのも今回の能代訪問の目的のひとつでした。木のまち能代の象徴でもある集成材工場の見学はものづくりを学ぶ学生にも興味深いものであったようです。

最後は、お馴染みの常盤の毘沙門憩いの森に体験学習に出かけました。山谷のお母さんに用意してもらったお昼をたらふく食べて、カヌー体験、木橋、ウッドチップ舗装の見学と常盤の里を満喫してもらいました。真夏の猛暑でも元気いっぱいの西目高校生でした。

文：佐々木貴信



まだまだ、木育スクールはこれからですよ！